

2-3. 犯罪被害者等と一般対象者との比較

犯罪被害者等と一般対象者との比較として、生活上の変化、身体・精神・経済的状況等について分析する。

(1) 生活上の変化

生活上の変化について、犯罪被害者等には事件後から現在までの生活変化（出来事）、一般対象者には最近5年間程度の生活変化（出来事）を尋ねた。犯罪被害者等では、「自分が転居（引越し）をした」（17.0ポイント）、「学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）」（15.7ポイント）、「学校または仕事を辞めた、変えた」（14.7ポイント）、「結婚した」（12.1ポイント）、「家族間で不和が起こった」（11.8ポイント）、「長期に通院したり入院したりするようなかげや病気をした」（11.2ポイント）、「別居・離婚をした」（8.6ポイント）等において、一般対象者の回答比率を上回っている（括弧内は両者の差）（図表3-1）。

図表 3-1 回答者属性別、生活上の変化（複数回答）【Q50/P9】

	全体	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）	長期に通院したり入院したりするようなかげや病気をした	自分が転居（引越し）をした	結婚した	別居・離婚をした	望まない妊娠をした	子どもが生まれた	同居している家族が結婚した
犯罪被害者等	819	209 (25.5%)	154 (18.8%)	121 (14.8%)	195 (23.8%)	110 (13.4%)	78 (9.5%)	19 (2.3%)	78 (9.5%)	40 (4.9%)
一般	851	92 (10.8%)	26 (3.1%)	31 (3.6%)	58 (6.8%)	11 (1.3%)	8 (0.9%)	1 (0.1%)	24 (2.8%)	6 (0.7%)

	同居している家族に子どもが生まれた	同居している家族の看護・介護が必要になった	家族が亡くなった	家族間の信頼が深まった	家族間で不和が起こった	学校や職場、地域の人々との関係が親密になった	学校や職場、地域の人々との関係が悪化した	その他	あてはまるものはない
犯罪被害者等	23 (2.8%)	32 (3.9%)	118 (14.4%)	37 (4.5%)	117 (14.3%)	18 (2.2%)	53 (6.5%)	14 (1.7%)	333 (40.7%)
一般	0 (0.0%)	19 (2.2%)	81 (9.5%)	22 (2.6%)	21 (2.5%)	11 (1.3%)	18 (2.1%)	4 (0.5%)	573 (67.3%)

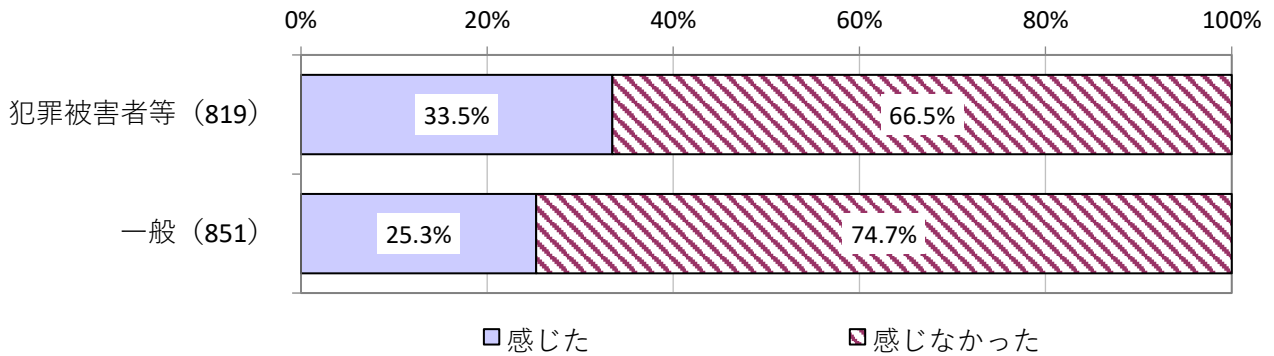
(2) 身体的状況

過去30日間における身体上の問題について、「感じた」との回答比率は犯罪被害者等（33.5%）の方が一般対象者（25.3%）よりも高くなっている（図表3-2）。

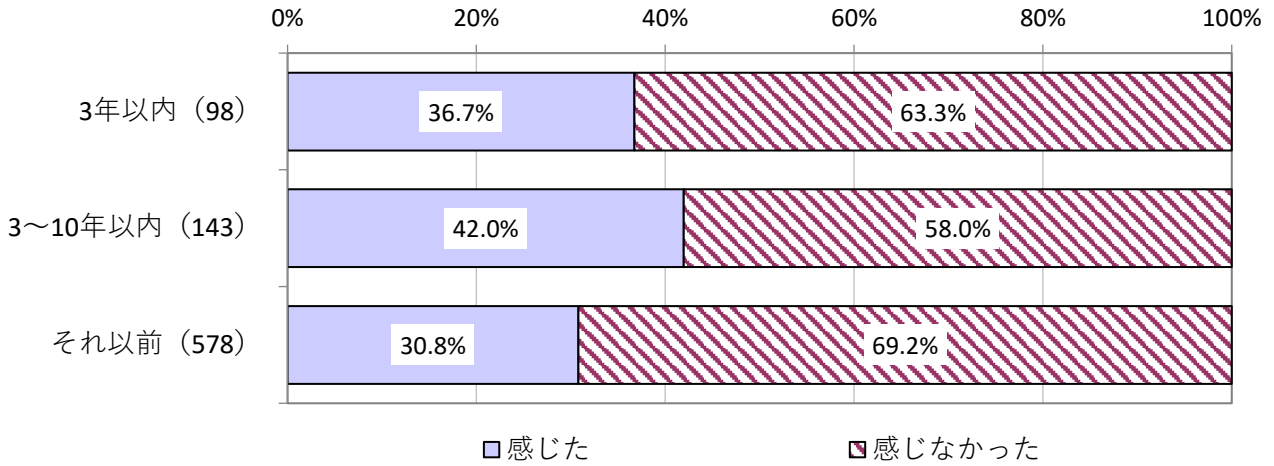
被害の時期別にみると、「感じた」との回答比率が最も高いのは「3～10年以内」（42.0%）となっている（図表3-3）。

身体上の問題への対処方法をみると、犯罪被害者等では「医療機関に通った（訪問診療を含む）」との回答比率が36.5%と、一般対象者（25.1%）より高くなっている（図表3-4）。

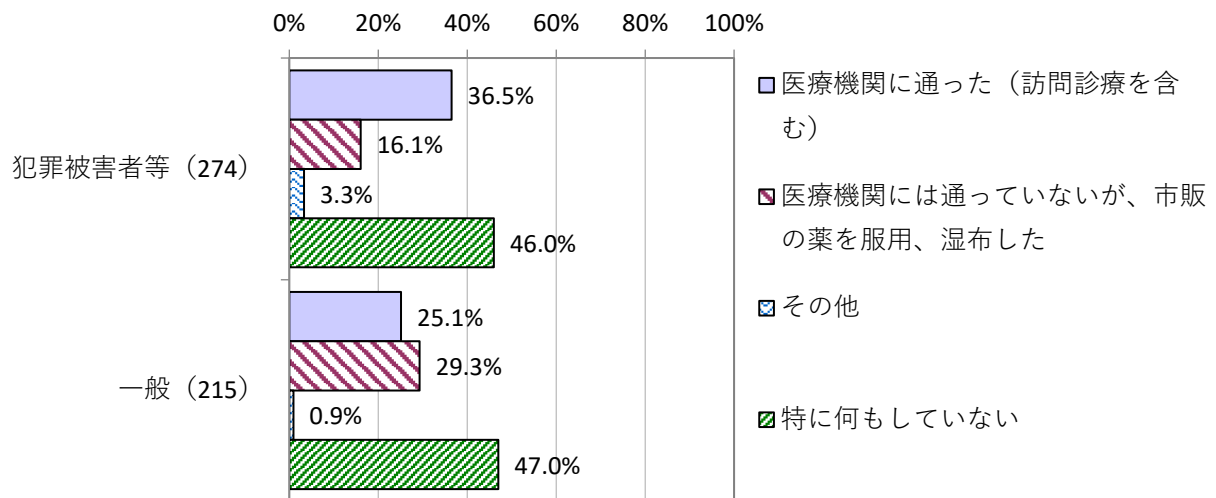
図表 3-2 回答者属性別、身体上の問題の有無【Q28/P3】



図表 3-3 被害の時期別、身体上の問題の有無_犯罪被害者等【SC2、Q28】



図表 3-4 回答者属性別、身体上の問題への対処方法（複数回答）【Q30/P4】



※対象：Q28 及び P 3（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（犯罪被害者等：274 人、一般：215 人）のみ。

(3)精神的状況

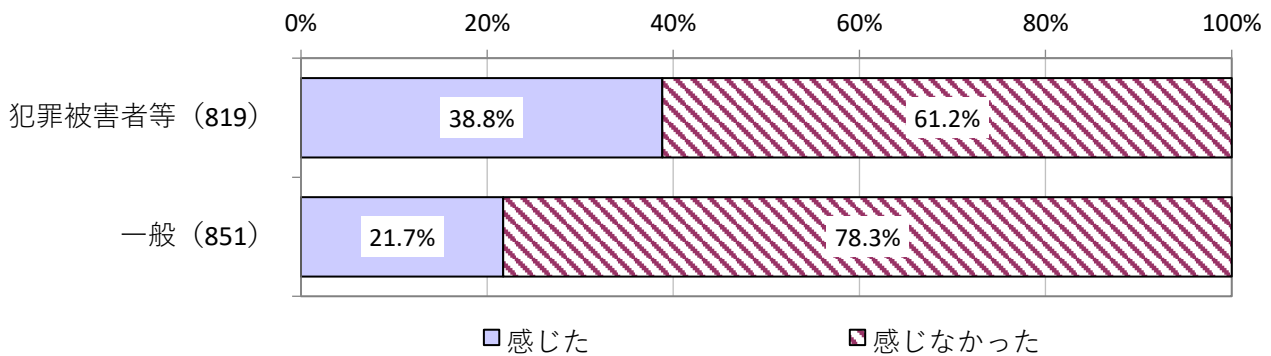
ア. 精神的な問題

過去30日間における精神的な問題や悩みについて、「感じた」との回答比率は犯罪被害者等(38.8%)の方が一般対象者(21.7%)よりも高くなっている(図表3-5)。

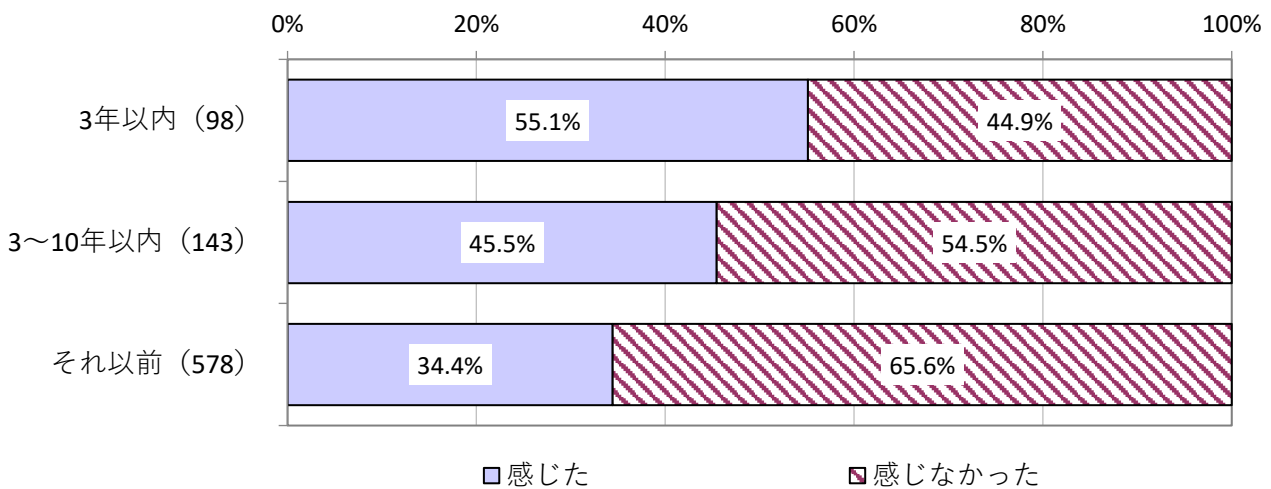
被害の時期別にみると、「感じた」との回答比率が、「3年以内」では55.1%、「3～10年以内」では45.5%、「それ以前」では34.4%と、期間が経過するほど低くなっている(図表3-6)。

精神的な問題への対処方法をみると、犯罪被害者等、一般対象者ともに、「特に何もしていない」(それぞれ56.6%、80.0%)との回答比率が最も高く、次いで「医療機関(精神科以外も含む)に通った(訪問診療を含む)」(同26.1%、11.9%)、「家族や知人に相談した」(同17.9%、8.1%)の順に高くなっている。また、犯罪被害者等では一般対象者より「医療機関(精神科以外も含む)に通った(訪問診療を含む)」で14.2ポイント、「家族や知人に相談した」で9.8ポイント、「公的機関や民間団体において、カウンセリングを受けたり相談をしたりした」で7.4ポイント上回っている(図表3-7)。

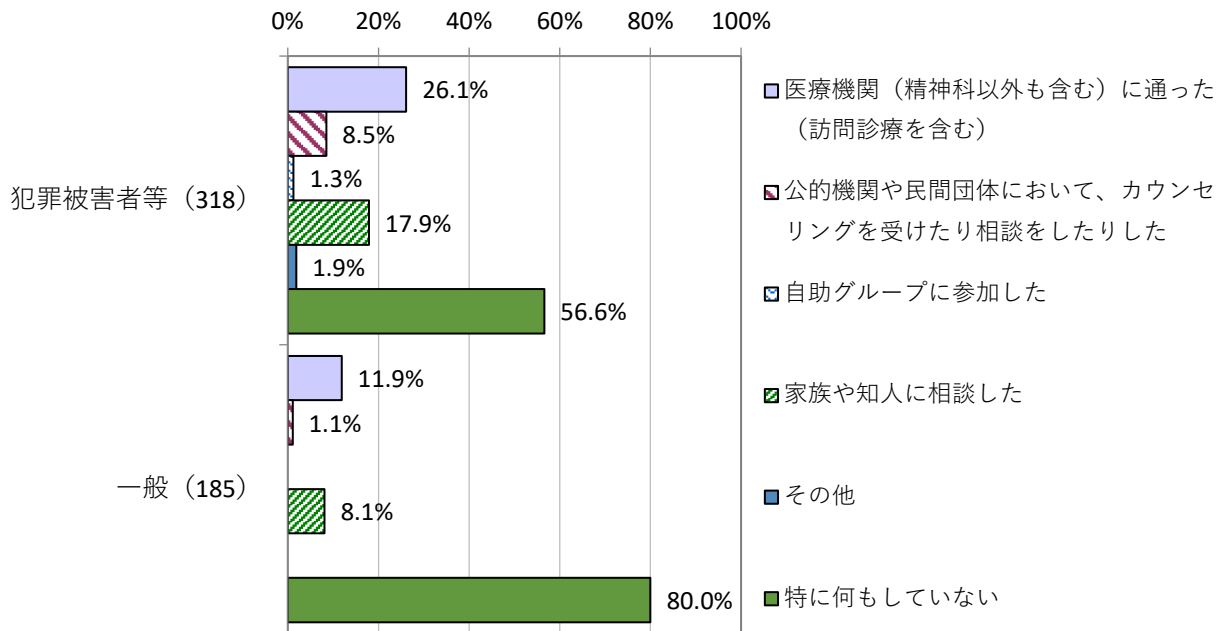
図表 3-5 回答者属性別、精神的な問題の有無【Q31/P5】



図表 3-6 被害の時期別、精神的な問題の有無_犯罪被害者等【SC2、Q31】



図表 3-7 回答者属性別、精神的な問題への対処方法（複数回答）【Q33/P6】

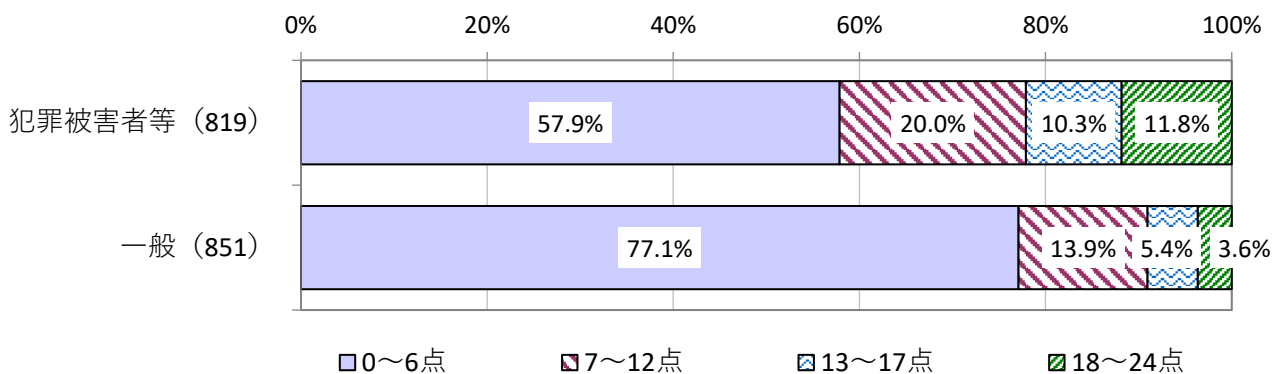


※対象：Q31 及び P5（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（犯罪被害者等：318人、一般：185人）のみ。

イ. 精神健康状態(K6)

精神健康状態について、K6の値で比べると、重症精神障害相当とされる13点以上の割合は、犯罪被害者等（22.1%）が一般対象者（9.0%）を13.1ポイント上回っている（図表3-8）。

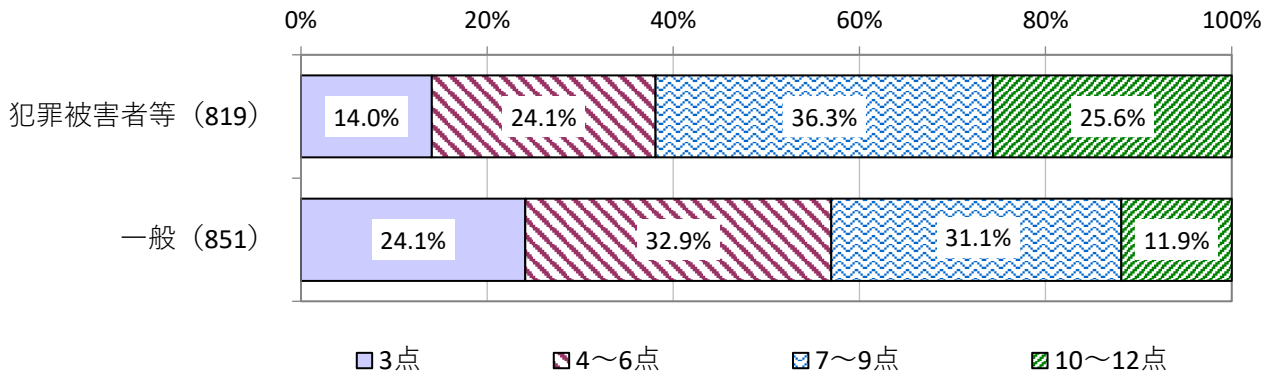
図表 3-8 回答者属性別、K6 得点【Q34/P1】



ウ. 孤独感尺度(UCLA)

孤独感について、UCLA 孤独感尺度（以下「UCLA」という。）の値で比べると、10 点以上の割合は、犯罪被害者等（25.6%）が一般対象者（11.9%）を 13.7 ポイント上回っている（図表 3-9）。

図表 3-9 回答者属性別、UCLA 得点【Q36/P2】



エ. 日常生活が行えなかったと感じた日数

直近1年間で心身の不調等により仕事や日常生活が行えなかったと感じた平均日数については、犯罪被害者等（28.9日）が一般対象者（7.5日）の約4倍に達している（図表 3-10）。

図表 3-10 回答者属性別、日常生活が行えなかったと感じた日数【Q35/P7】

回答者属性	平均日数
犯罪被害者等(N=819)	28.9日
一般(N=851)	7.5日

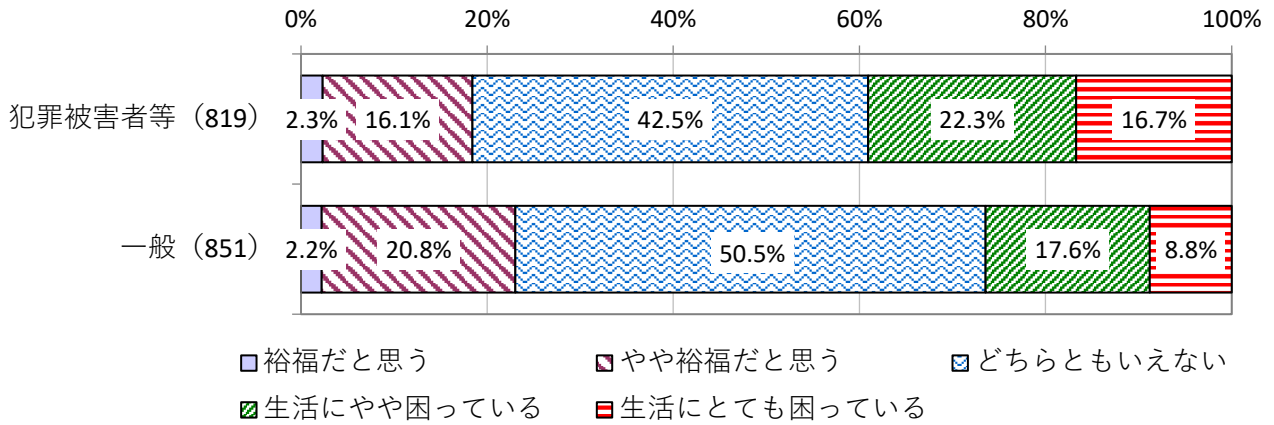
(4)経済的状況

ア. 生活の状況

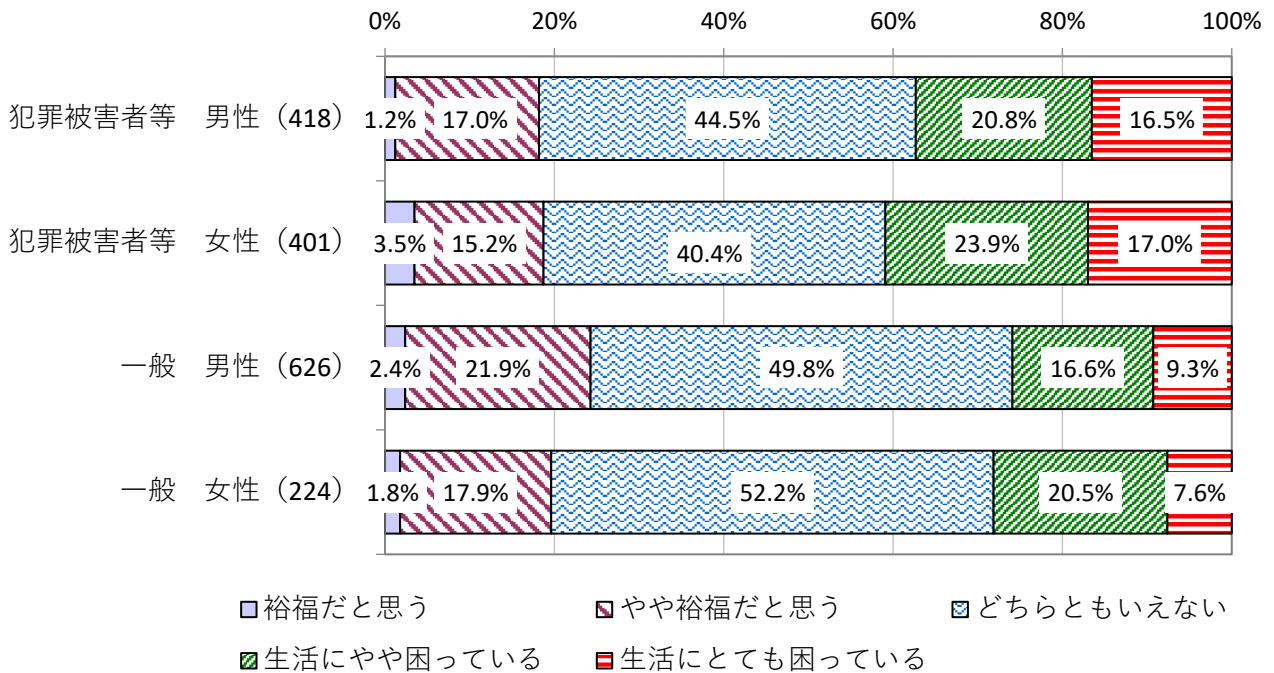
経済的状況に関する意識については、裕福（「裕福だと思う」と「やや裕福だと思う」の和）との回答比率は、犯罪被害者等が 18.4%と、一般対象者（23.0%）よりもやや低くなっている。一方、困っている（「生活にやや困っている」と「生活にとっても困っている」の和）との回答比率は、犯罪被害者等が 39.0%と、一般対象者（26.4%）よりも高くなっている（図表 3-11）。

回答者の性別ごとにみると、困っているとの回答比率は、犯罪被害者等では女性が 40.9%、男性が 37.3%、一般対象者では女性が 28.1%、男性が 25.9%と、いずれも女性の方がやや高くなっている（図表 3-12）。

図表 3-1 1 回答者属性別、経済的状況に関する意識【Q37/P10】



図表 3-1 2 性別、経済的状況に関する意識【F1、Q37/F1、P10】



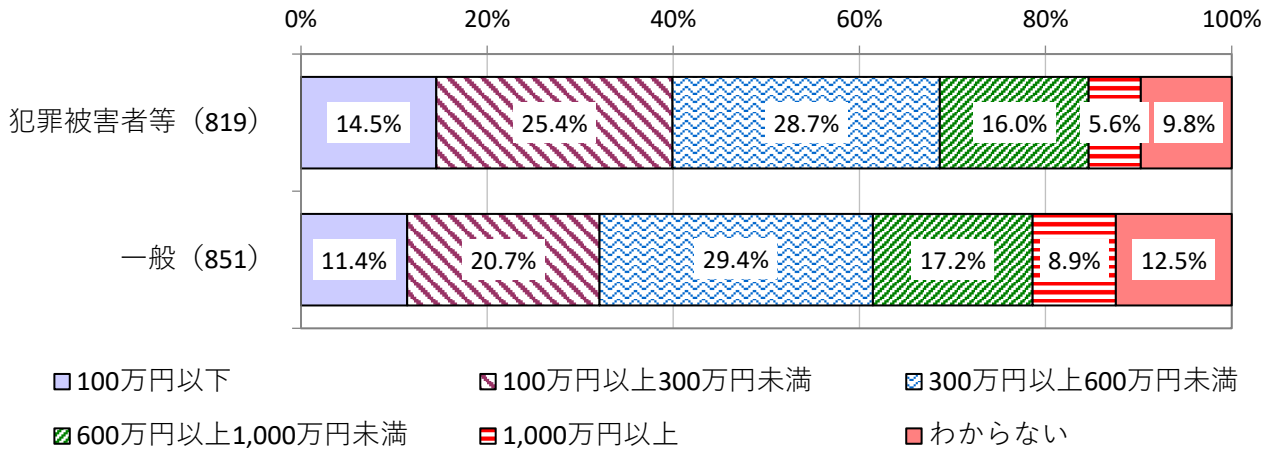
※対象：F1（性別）で「上記にあてはまらない」を選択した方（一般：1人）を除く。

イ. 年収

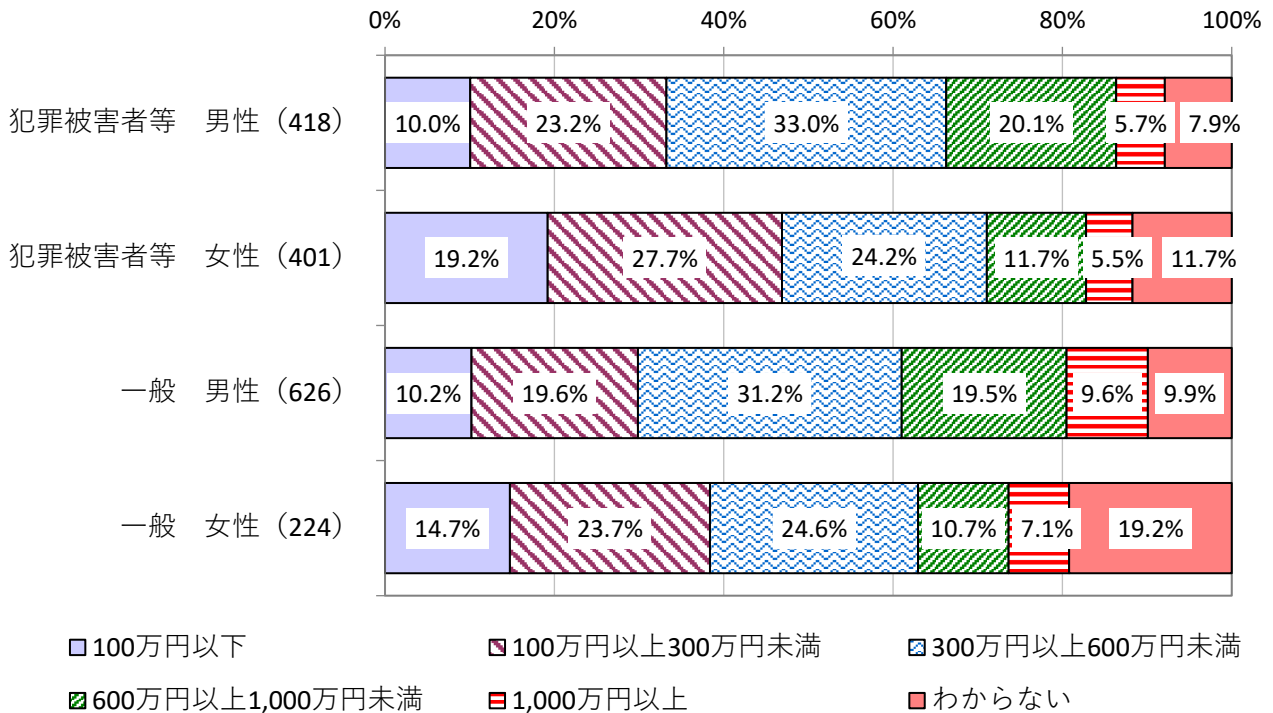
現在の世帯年収水準について、300万円未満（「100万円以下」と「100万円以上300万円未満」の和）との回答比率は、犯罪被害者等が39.9%と、一般対象者（32.1%）よりも高く、「1,000万円以上」との回答比率は、犯罪被害者等が5.6%と、一般対象者（8.9%）よりもやや低い（図表3-13）。

回答者の性別ごとにみると、犯罪被害者等、一般対象者ともに、300万円未満との回答比率が女性の方が男性よりも高い（図表3-14）。

図表 3-13 回答者属性別、現在の年収水準（世帯年収）【Q39/P11】



図表 3-14 性別、現在の年収水準（世帯年収）【F1、Q39/F1、P11】



※対象：F1（性別）で「上記にあてはまらない」を選択した方（一般：1人）を除く。